

「学習者主体の授業」実践例

日置市
教育委員会

小学校2年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

- 乗法のきまりをもとに考え、式から求め方を読解したり、図から求め方を読解したりすることができる。
- 読み解いたことを式や図を用いて表現し、答えの求め方を説明することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- 乗法のきまりを活用して、身近な問題に生かそうとする。

○ 工夫した点

- 子供が自ら問いを発見させるために
縦6列、横6列に並んだアレイ図とL字型に並んだアレイ図を比較させ、「一度のかけ算九九で求めることができないものを、九九を使ってどのように求めたらよいか」という問いを発見させるようにする。
- 子供が解決の方法を見通すために
アレイ図を見て、「いくつかのかけ算九九が隠れているか」と発問し、隠れているかけ算九九をまとまりごとに丸で囲めばいいことに気付かせる。また、課題解決できそうな問題を1つ選択させることで、課題解決に対する主体的な学びと同時に個別最適な学びを保障する。
- 子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返し、協働するために
思考ツールのYチャートを活用し、考え方を整理・説明できるようにする。
- 子供が自ら学びを振り返り、次に生かすために
振り返りにつなげるために、表情カードで個別に課題解決の難易度を把握できるようにする。

今までの授業では…

【学習課題】

チョコレートは、ぜんぶで何こありますか。九九をつけて、くふうしてもとめましょう。

先生：教科書の□の問題を読みましょう。
先生：何の段の九九が使えそうですか。
子供A：3の段です。
先生：どうやって求められるか、線を引いたり、○で囲んだりして考えてみましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

子供が自ら問いを発見する

先生：チョコレートは全部で何個あるでしょうか。
子供A：36個です。
先生：どうやって求めましたか。
子供B： 6×6 です。
先生：チョコレートを少し食べてしまいました。チョコレートは何個あるでしょうか。
子供C：一つのかけ算九九で求められないよ。

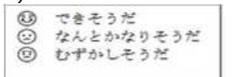


【学習課題】

一つのかけ算九九では求めることができないものを、九九を使ってどのように求めたらよいのだろうか。

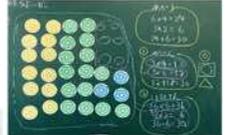
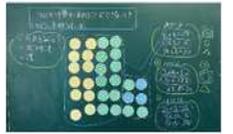
子供が解決の方法を見通す

先生：この図には、いくつかのかけ算九九が隠れていますか。
子供A：ここだけを見ると、 2×3 というかけ算九九があります。
先生：隠れているかけ算九九を探して、丸で囲むとよさそうですね。
先生：教科書に3人の人が式を書いています。その式に合うように、図を丸で囲んで説明してみましょう。
先生：3人のうち、誰の考えを説明してみたいですか。
子供B：わたしは、あかりさんの考えに挑戦してみたいです。
先生：説明できそうですか。表情マークに丸をつけましょう。



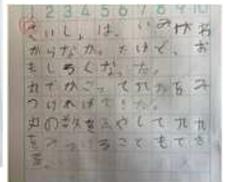
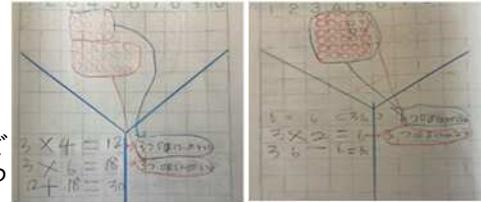
子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返し、協働する

子供A： 6×4 は6のまとまりが4つ分あるから、図のこの部分を囲むとよさそうです。
子供B： 6×6 は、どこにあるんだろう。ここに6個丸をつけ足せば、 6×6 が作れそうです。
先生：Yチャートに整理して、友達と説明し合ひましょう。
子供A： 6×4 は6のまとまりが4つ分あるから、図のこの部分を丸で囲みました。



子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

先生：最初に選んだ表情カードと比べて、どのように自分が変わりましたか。



子供A：最初は、できそうかなと不安なところもあったけど、まとまりがいくつ分あるかというふうに考えると、図からかけ算九九が見えるようになってきました。かけ算九九を使えば、分けて考えることもできることが分かりました。

「学習者主体の授業」実践例

いちき串木野市
教育委員会

小学校5・6年
算数

○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

5年【知識及び技能】（整数）÷（小数）の仕方を考え、その方法を理解し、正確に計算することができる。

6年【学びに向かう力，人間性等】資料には，平均値以外に資料の特徴を表す値が存在することや，散らばり方の違いに気付こうとする。

○ 工夫した点

- ヒントカードや掲示物，前時の教材等を準備し，多様な選択肢の中から自分に必要な教材を選択させ，学習の見通しをもたせた。（5年）
- ガイド役の児童を中心に対話的な活動を進めたり，タブレット内のカードを操作しながら，散らばりの様子を視覚的に捉えさせたりした。（6年）
- デジタル問題集を用意し，早く活動が終わった児童はその問題集か課題を選択し，自主的に取り組ませた。（共通）

今までの授業では…

【課題解決の見通し】5年

→ 全員共通のワークシートを配布して自力解決をさせる。前時の内容が定着していない児童などは自力解決が難しい。

【考えの共有】6年

→ 具体物を黒板に提示して説明させる。教材の数に限りがあるため，特定の児童しか説明できない。

先生： 今日のためてを写しましょう。ワークシートを配ります。後ろに回してください。

児童A： 終わりました。次は何をすればいいですか。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】5年

$360 \div 1.8$ の筆算のしかたを考えよう。

- ② 子供が解決の方法を見通す
- ・ 自分に合った課題解決の手立てを自己決定する。
 - ・ 課題解決する相手を自己決定する。（個人・ペア・グループ）



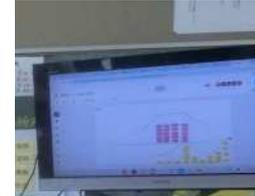
先生： どんな方法を使えば，筆算の仕方を考えられそうかな。
児童A： 前の時間に学習したわり算のきまりが使いそう。
児童B： 黒板を使ってみんなで考えたいな。

- ③ 子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す，協働する。
- ・ 自分の考えを相手と共有（説明）する。
 - ・ 発表の仕方を話し合う（ノート・ホワイトボード・タブレット）。

【学習課題】6年

平均は同じなのに，どうしてAのカードの方が300に近くなるのだろうか。

- ① 子供が自ら問いを発見する。
- ・ ゲーム感覚で複数回挑戦し，毎回Aが300に近づくことに気付く。
 - ・ 裏返しの数も予想し，数値のまとまりを意識する。



先生： またAのカードが300に近くなったねえ。
児童A： どうして？
児童B： もしかしてAのカードの数には，何か秘密があるのかも。

- ③ 子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す，協働する。
- ・ 端末で各自がカードを操作し，試行錯誤する。
 - ・ jamboardで共有し，散らばりの様子を視覚的に捉える。

「学習者主体の授業」実践例

十島村
教育委員会

前期課程 5年
社会科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

気候条件に特色のある地域の様子や気候条件を生かした人々のくらしや産業の様子について、資料を活用して調べたことを理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

気候条件に特色のある地域の様子と人々のくらしや産業の様子について考え、調べたことと関連付けて表現することができる。

○ 工夫した点

- 暖かい土地と寒い土地のくらしを比較しながら学習を進めることで、それぞれの地形におけるくらしの工夫をより深く理解できるようにする。
- 予習を取り入れ、問いをもたせた上で対話を通して友達の考えと比較したり、質問したりする活動を設定する。
- 毎時間の終末段階に、ロイロノートに毎時間振り返りを行い、子供が本時の学びを振り返り、次時の学習に生かすことができるようにする。

今までの授業では…

1 これまでの学習内容について

【学習内容】気候の特色に応じたくらし → 【追究する事象】北海道地方のくらし

暖かい気候の十島村に住む児童にとって、身近に感じにくい内容で、興味・関心をもちにくく、主体的に追究する姿を表出させることが難しかった。

2 これまでの学習課題の設定について

児童の問題意識を十分に引き出すことができていなかった。

先生：寒い土地に住む人々のくらしについて調べていきましょう。めあてはどうしますか？

児童：寒い土地に住む人々は、どのようにくらししているのだろうか？

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】 それぞれの気候に合った家は、どのようになっているのだろうか？

①子供が自ら問いを発見する。

児童：今日は、気候に合った家の工夫を調べてきました。
先生：今日は家の工夫について考えていくとよいか？



対話による学習課題の設定

②子供が解決の方法を見通す。

〇〇さんは、どんなことが分かった？一緒に調べたことを確かめてみたいな。



今日は、もう少し一人で調べてみたいな。

学習の見通しをもつ

④子供が自らの学びを振り返り、次に生かす。

それぞれの気候に合わせて工夫して家をつくっていた。実際に見に行ってみたかったと思った。

学習の振り返り



次は、気候に合った農業についてたくさん調べたい。

③子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する。

発展学習

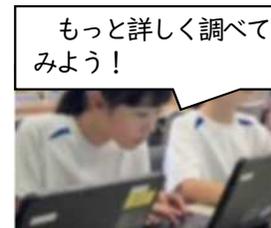


タブレットのドリルで確認してみよう！
他の地域はどんな工夫があるのかな？



家の様子にはどんな違いがあった？

解決のための話し合い



もっと詳しく調べてみよう！

タブレットの活用

比較できる板書



「学習者主体の授業」実践例

指宿市
教育委員会

小学校4年
社会科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

水道水が送られてくる仕組みを理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

供給に関わる人々の工夫や努力、苦勞、思いについて理解を深めることで、節水のために自分ができることを考え、適切に表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

水道水が届く仕組みや経路に関心をもち、意欲的に調べ、よりよい水の使い方について、自分事として捉え、積極的に取り組もうとする。

○ 工夫した点

- 「いぶすき授業ポイント5」を意識して単元及び1単位時間の授業をデザインした。(①意欲, ②見通し, ③試行錯誤, ④協働, ⑤振り返り)
- 試行錯誤の場面では、ヒントコーナーをオープンスペースに設置し、子供が自己選択・自己決定できるようにした。
- 協働の場面では、子供がタブレット端末を活用し、グループのメンバーと共同編集しながら、多様な考えを共有できるようにした。また、他のグループの状況も確認できるように大型モニターに一覧表示した。(他者参照)

今までの授業では…

先生：(グラフ等提示)

わたしたちの市では、こんなにたくさんの水が使われています。どこから、どのように送られてくるのか、みんなで調べていきましょう。

児童：※教師とともに、副読本を活用して調べ学習を行う。

また、教科書に書かれている内容について、教師とともに確認する。

【学習課題】

わたしたちが毎日使っている水は、どこから、どのようにして送られてくるのでしょうか。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】 <1時間/全11時間>

水道水について、不思議に思うことや知りたいことは何だろう。

先生：(ペットボトルに入った水道水と池の水の現物を提示)どちらが水道の水でしょうか。
児童：透明できれいだから水道水は、こっちだと思う。

単元をデザインする。<指導計画 全11時間>

- ◆自己選択, 自己決定
- 1 水道水についての疑問を出し合い、疑問を観点ごとに話し合いながら分ける。
- 2 観点に分けた疑問を使って学習問題と学習計画をつくる。
- 3 浄水場でどのようにして水をきれいにしているのかを調べる。
- ◆キーワード：(1)仕組みや働き (2)安心・安全・安定 (3)工夫していること
- ◆学習形態：一人て、友達と、グループで、一人で(先生と)
- 4 市の水道の移り変わり、ダムや水源の森の働きについて調べる。
- 5 調べたことをまとめる。(新聞作り、ロイロノート等)
- 6 調べたことを発表し合い、限りある水について自分たちができることを考える。
- ※ 3・4・5の時間については、学級の実態を考慮して設定する。

いぶすき授業ポイント5

子供一人一人の学びを成立させる
「学習者主体の授業」



令和5年度、市内の教職員で何度も協議して改訂しました。1単位時間の学習過程をイメージしていますが、単元構成としても、この5ポイントを意識しています。

意欲	1 子供が問いをもち意欲が高まる課題の設定 「知りたい!!」「分りたい!!」「できるようにしたい!!」	「子供が使う」 一人一台端末(タブレット)の効果的な活用
	2 子供がゴールまでの見通しをもてる活動 「この方法でやってみよう!!」「別の方法もおもしろそうだな!!」「どんな発表(まとめ)しようかな!!」	
見通し	3 子供が試行錯誤を繰り返す活動 「なぜだろう?」「どうしてだろう?」「これまでに習ったことを使えないかな?」「解決のヒントはどこにあるかな?」	「子供が使う」 一人一台端末(タブレット)の効果的な活用
	4 子供が協働して、自らの考えを創り出す活動 「あの友達に聞いてみよう!!」「できるまで挑戦するぞ!!」「こんな考えもあったのか!!」	
試行錯誤	5 子供が自らの学びを振り返る活動 「この方法がよかったな」「友達のことを聞いて、もっと分かったよ」「これからはもっとがんばりたい!!」	「子供が使う」 一人一台端末(タブレット)の効果的な活用
	【振り返りの視点例(わ・で・か・い・も)】 ・分かったこと、分らなかったこと ・できたようになったこと ・考えたこと、考えたこと ・生かしていきたいこと ・もっと知りたいこと	
協働		
振り返り		

<本時のポイント5>

※①~④は「4つの視点」との関連

- ①意欲：具体物を提示し、比較させることで意欲を高めた。
- ②見通し：子供とともに、活動時間を設定した。
- ③試行錯誤：自席を離れてヒントコーナーへ、ロイロノートの資料箱のヒントカード確認、他の子が書いたカードを参照するなど、疑問を多くもてるように準備した。
- ③協働：グループのメンバーとロイロノートのカードを共同編集しながらまとめた。他のグループの進捗状況も教室前方のモニターで確認できるようにした。
- ④振り返り：「わてかいいも」の視点ごとにロイロノートのカードを色分けして記入、他の子の記入内容も共有させた。

「学習者主体の授業」実践例

南さつま市
教育委員会

小学校6年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

分数の乗法や除法を適用する問題で、数量関係をとらえ、演算決定について理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

分数の乗法や除法を適用する問題で、演算決定について説明することができる。

○ 工夫した点

- 児童自身が選択した学習問題を解き、個やペア、全体で考えさせる活動を意図的に取り入れる。
- 形成的評価問題や習熟の学習について、自身の理解に合わせていくつかの内容の中から児童が選択して取り組む。
- 振り返りカードを活用し、選択による自己評価と文章表記による学習の振り返りを行う。

今までの授業では…

【学習課題】

次の問題を読んで、式と答えを求めましょう。

長さが $4/3$ mで、重さが $9/5$ kgの鉄の棒があります。この棒1mの重さは何kgですか。

先生：これまで分数×分数や、分数÷分数の計算を学習しました。今日は、文章問題からどんな式になるか考えましょう。

児童：何算になるのかな。

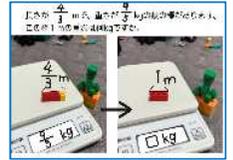
学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

どのように式を決定するとよいのでしょうか。

① 長さが $4/3$ mで、重さが $9/5$ kgの鉄の棒があります。この棒1mの重さは何kgですか。

② 3mの重さが $9/5$ kgの鉄の棒があります。この鉄の棒1mの重さは何kgですか。



【全体】
つかむ
見通す

児童が自ら問いを発見する。

先生：いくつかの問題があります。式を立てるにはどんな工夫をするとよいか。

児童A：数直線図や表をかくと式を正しく立てることができたよ。

児童B：②の問題は○ページの問題と似ているから解けそうだな。

先生：解きたい問題を自分で選んで、式と答えを求めましょう。

【個】
【グループ】
調べる
考える

児童が自分で問題を選択し、解決の方法を見通す。

先生：はじめに一人で考える時間をとります。考えが浮かばないときは、聞きに来たり、ロイノートに配っているヒントを参考にしたりしていいですよ。

児童が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する。

(教師が乗数と被乗数を入れ替えた誤りの式を提示する。)

先生：この式が間違っていることを説明できますか。

児童B：計算をして答えを出すと、単位が違うから間違っています。

児童C：単位がkgにならないといけなければならないけれど、この式だと単位がmになってしまっているから間違いです。

先生：なるほど。図表を基に公式を使って式を立てることや、答えの単位に気を付けて式を立てることが大切です。

【全体】
深める

先生：問題を読み、練習をしましょう。ヒントあり、ヒントなしを自分で選んで取り組みましょう。終わったら学習の振り返りをしましょう。

児童A：式を決めるときは、公式や図、表などを基にして考えればよいことが分かりました。これからは答えの単位にも注意して式を考えたいです。



児童自らが学びを振り返り、次に生かす。

「学習者主体の授業」実践例

南九州市
教育委員会

小学校6年
社会



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇中心の国造りが確立されたことを理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

天皇中心の国づくりに貢献した人物について、根拠を基に自らの意見を述べるができる。

【学びに向かう力、人間性等】

奈良時代に行われた天皇中心の国造りや大仏造営に関心を持ち、奈良時代における人物の評価について主体的に議論しようとする。

○ 工夫した点

- 学習方法の選択(ノートかタブレット)と、表現方法(人物トレーディングカード作りか推し活(推す人物のプレゼン作成))を子供が選択できるようにすることで、学習者主体の学びとしての意識を育む。
- 論題「天皇中心の国造りに最もこうけんしたのは誰だろうか」と学習計画表を単元の第1時目に提示し、単元のゴールに向けて見通しをもたせることで、学習者主体の調べ学習が行えるようにした。

今までの授業では…

【学習課題】

聖武天皇がどのようにして奈良の大仏を作ったのかを調べよう。

先生：今日は、聖武天皇がどのようにして奈良の大仏を作ったのかを調べます。教科書の資料を見て、気付いたことを発表しましょう。

児童A：多くの人が働いています。

児童B：倒れている人もいます。

児童C：火の勢いがすごいです。

先生：これから、作り方の手順を調べていきましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

子供の常識を揺さぶる「事実の提示」から始まる、問題解決的な学習の工夫

第1～2時 課題の設定と学習計画づくり【単元を通して考えを深めるための課題】
天皇中心の国づくりに最もこうけんしたのは誰だろうか。

授業構造と児童が学びに向かうための手立て(①～⑤)

①本単元の構造図

学習者主体の学び

学習の見通しの提示

学習計画表

学習のゴール

表現方法の選択

トレカ

推し活

学習方法の選択

タブレット

ノート

議論(協働)

学びの確認

多角的なもの
見方・考え方

学びの振り返り

学びを生かす

第3～6時 教科書・資料集・関連図書を使って人物を調べる
(聖徳太子、中大兄皇子、聖武天皇)

第7時 課題に対しての自分の考えをまとめる

第8時 議論をする、学習を振り返る



選んだ人物ごとに話し合い、根拠を示して事実を基に議論する。

授業者は、議論を促すために子供同士の考えをつなげたり、考えを揺さぶるなどファシリテーターとしての役割に徹する。

児童の「学びの振り返り」より

- ・ 僕はどの人物が一番貢献したかは、考える視点によって変わってくるから、決められないと思った。いろいろな場面での一方的な見方にならないように気を付けていきたい。
- ・ 3人それぞれの思いがあって、いいことをしているので一番貢献した人を決めることは難しかった。教科書以外も使い、友達と話し合いながら学習でき、いろいろ知ることができた。

②学習計画表の作成・提示



③関連図書コーナーの設置



④人物トレーディングカード作り

武力、知力、技(したこと)の3つで人物を評価し、パラメータに表す活動。



⑤推し活

人物の推しポイントをイラストやプレゼンで表現する活動。



「学習者主体の授業」実践例

出水市
教育委員会

小学校5年
道徳
(B-10 友情, 信頼)



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【道徳的判断力, 道徳的心情, 道徳的实践意欲と態度】

互いに信頼し、助け合うことに関わる見方・考え方・感じ方を、自らの体験場面での内面と関係付けて類推しながら考え、表現しようとする。また、互いに信頼し、助け合うことの意義や心構えの大切さを自分の生き方との関わりを通して理解するとともに、友達同士の相互信頼の下に、協力し、互いに磨き高め合おうとする気持ちを高めようとする。

○ 工夫した点

- 「友情」や「信頼」に対する捉えを挙げさせ、それぞれの捉えを基に、自分が考えていきたい問題に気付くことができるようにする。
- 「友情」について、自分の経験や体験場面での心情と関係付けながら考えさせるとともに、多様な価値観に触れることができる対話活動を設定する。

今までの授業では…

【学習課題】

友達と仲良くするためには、どんな気持ちや考えが大切だろう。

- 先生： 友達と仲良くすることができなかったことはありますか。
児童A： 遊んでいたら、けんかになってしまったことがあったな。
児童B： 自分の言うことを聞いてくれなかったから、別の友達と遊んだ。
先生： 友達と仲良くすることができなかった経験は誰にでもありますね。では、今日は、友達と仲良くするためには、どんな気持ちや考えが大切なのかを考えていきましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

- 先生： 「友達」とはどんな存在ですか。
児童A： 一緒に遊ぶ仲間だと思うよ。
児童B： 「けんかするほど仲がいい」という言葉もあるし、けんかすることがあるのも友達だからなのかな。
児童C： 何でも言い合える相手や相談できる相手のことだと思うよ。
児童A： 「友達」についての考え方は、いろいろあるな。
先生の「友達」とは、どんな相手を言うのかな。

【学習課題】

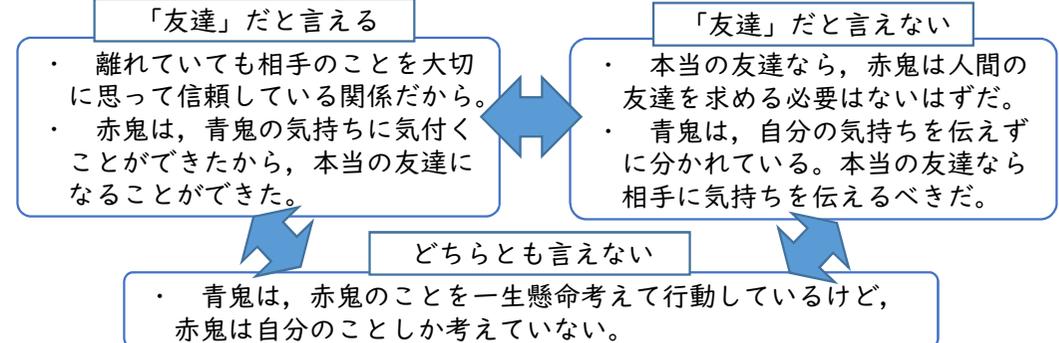
本当の「友達」とは、どんな存在なのだろう。

子供が自ら問いを発見する

教材名「泣いた赤鬼」〔出典 新編 新しい道徳（東京書籍）〕

先生：（教材を読んで）赤鬼と青鬼は本当の「友達」だと言えるでしょうか。自分の考えとその理由を友達と話し合ってみましょう。

子供が協働する



先生： 友達との話し合いから、本当の「友達」とは、どんな友達のことだと考えますか。

児童A： ぼくは、一緒に仲良く遊んだり、行動したりする相手が友達だと思っていたけど、離れていたとしても、相手のことを思いやることができた、相手の気持ちが分かっていたりするの、本当の友達なんだな。

児童B： お互いのことを分かり合っているのが本当の友達だと思う。たとえば、思いを直接伝えなくても、相手を信頼して、支えてくれる人が友達。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

- 先生： 今日の学習をとおして、これから大切にしたいことはどんなことでしょうか。
児童C： 本当の「友達」になれるように、相手を信頼する気持ちを大切にしたいな。
児童D： 自分のためだけでなく、相手のためになることを考えて行動する気持ちを大切にしていきたい。

「学習者主体の授業」実践例

長島町
教育委員会

小学校6年
国語科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力・判断力・表現力等】

物語の主人公の気持ちの変化を捉え、「ブック・ウーマン」に対する見方がどう変わったのかを考えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝えようとする。

○ 工夫した点

- 単元全体を見通し、児童にとって魅力ある学習目標を設定し、物語を読み取ることに意味をもつことができるようにする。
- 児童にとって適切かつ必要感がもてるような学習課題を設定する。
- 4人以内のグループ学習形態を設け、「学び合い」を基本として学習課題の解決に臨むようにし、教師はファシリテーターの役目を果たす。

今までの授業では…

【学習課題に対する児童の思い】

- 「何のために（この物語等を）読んでいるのだろう。」
- 「誰かが（この課題を）解決してくれるだろう。」
- 「この学習（学び）は、何の役に立つのだろう。」

【教師からの一方的な学習課題の提示】

先 生：この物語を読んで気付いたことや考えたことを書いてもらいます。

児童A：はい。分かりました。

【教師と数名の児童による授業展開】

先 生：このことが分かる人はいますか。

児童B：はい。～～ということです。

他児童：いいと思います。

先 生：そうですね。

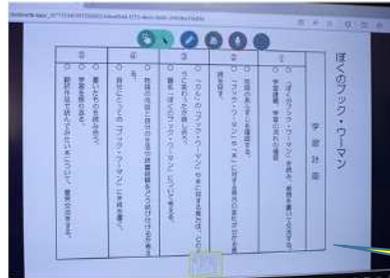
学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

(共有課題) 「カル」の気持ちは、どのように変化したのだろうか。

(ジャンプ課題) なぜ、「そのブック・ウーマン」ではなく

「ぼくのブック・ウーマン」なのだろう。



先 生：あなたにとってのブック・ウーマンは誰ですか。

児童A：母です。

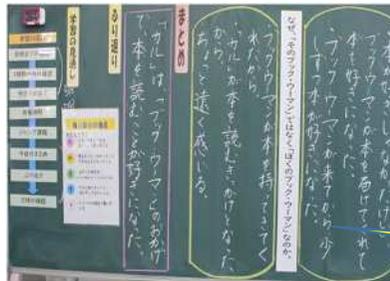
児童B：保育園の先生です。

先 生：何のためにこの物語を読むのですか。

児童C：自分にとってのブック・ウーマンに自分の読書に関して手紙を書くためです。

児童D：そのために物語の主人公の心情の変化を読み取りたいです。

子供が自ら問いを発見する



先 生：今日のジャンプ課題は「なぜ『その』ブック・ウーマンではなく『ぼくの』ブック・ウーマンなのか。」です。

児童A：英語題名の『That』をなぜ『My』の意味にしたのだろう。

児童B：分からないな。グループの人に聞いてみよう。

児童C：私は～～～だからだと思います。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す, 協働する



児童A：『その』ブック・ウーマンでは、なんだかよそよそしい感じがするからです。

教 師：よそよそしいとはどういうことですか。

児童A：特別な存在であることが伝わりません。

教 師：今の考えを聞いてみんなはどう思いますか。

児童B：確かにそう思います。

児童C：私は遠い存在から近い存在になったことを表すために『ぼくの』としたと思います。

ファシリテーターとして子供の発言や思考をつなぐ

「学習者主体の授業」実践例

伊佐市
教育委員会

小学校2年
国語科(知的障害特別支援学級)



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

漢字を組み合わせて、書いたり読んだりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

漢字は部分の組み合わせからできていることに気付くことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

どんな漢字になるか進んで考えようとする。

○ 工夫した点

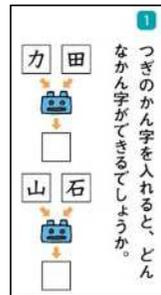
- 「導入」の段階での「既習の漢字の読みの練習」では、本時で学ぶ2つの部分をもつ漢字を中心に練習することで、本時の学習の漢字を意識することができるようにする。
- 「カンジー博士からの挑戦状」を提示することで、楽しく興味をもって学習に取り組むことができるようにする。

今までの授業では…

【学習課題】

漢字と漢字を組み合わせて、漢字を作ろう。

- 先生：2つの漢字を合わせると別の漢字ができます。教科書のこの問題を解いてみましょう。「田」と「力」を合わせるとどんな漢字になりますか。
- 生徒A：「田」と「力」で「男」という漢字ができました。
- 先生：そうですね。他にもたくさんありますよ。教科書巻末から見付けて、ノートに書きましょう。



学習者主体で授業をデザインすると！

導入：既習の漢字の読みを練習する

1～2年生で学んだ2つの部分をもつ漢字を意図的に選び、漢字カードで読みの練習をする。漢字カードは教室後方にあるテーブルに広げておく。



- 先生：カンジー博士から挑戦状が届きました。今日は、2つの問題があるようです。
- 児童A：楽しそう。よし、問題をクリアするぞ！

子供が自ら問いを発見する。

【学習課題】

かん字をたすと、どんなかん字ができるかな。



- 児童A：読みの練習をした漢字カードを見ると分かるかもしれないな。後ろのテーブルから見付けてみよう。

子供が解決方法を見通す。

- 先生：見付けたら、ワークシートに書いて読んでみましょう。
- 児童A：「七」と「刀」で「切」ができた。簡単に見付けることができたよ。次の漢字も漢字カードを見ると分かるね。
- 先生：すごい全部できましたね。カンジー博士もびっくりしてると思いますよ。次は、問題②にチャレンジしましょう。
- 児童A：上と下。右と左の漢字を見ると分かるよ。「岩」は、「山」と「石」からできているね。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す。

- 先生：今日の学習でどんなことができるようになりましたか。
- 児童A：漢字をたすと、違う漢字ができることが分かりました。
- 先生：カンジー博士の挑戦状は、見事クリアすることができましたね。これからも、カンジー博士と漢字の学習をしていきましょうね。
- 児童A：漢字の学習をまたがんばろう。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす。

「学習者主体の授業」実践例

始良市
教育委員会

小学校5年
理科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

物は溶けても存在し、重さも保存されることや、物が水に溶ける量には、限度があること、物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うことなどについて理解することができる。また、メスシリンダーや電子てんびん、ろ過器具、加熱器具、温度計などの器具を適切に用いて調べることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

物の溶け方の規則性について、根拠のある予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

物の溶け方の規則性について、他者と関わり合いながら、見いだした問題の解決に向けて実験方法、時間、役割などを決定、調整しながら粘り強く調べようとする。

○ 工夫した点

自分の予想の妥当性について主体的に追究することができるようにするために、各班で実験方法や時間、役割などを選択・決定しながら調整できるようにする。

今までの授業では…

先生：水に食塩を入れてみます。どうなりましたか。

児童A：消えた、見えなくなった。溶けた。

先生：食塩はどうなったのか考えていきましょう。ノートを開きなさい。

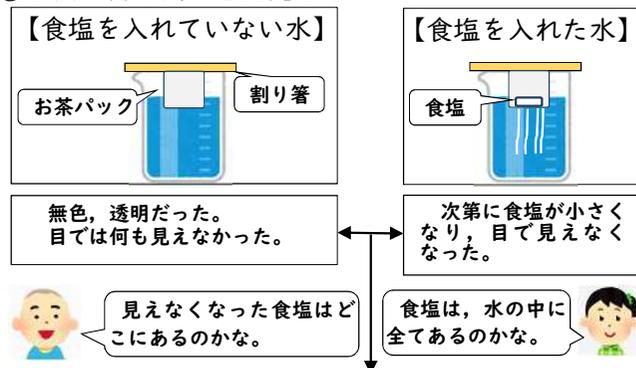
【学習問題】

水に入れて見えなくなった食塩は、どうなったのだろうか。

先生：まず、重さの実験、次に蒸発の実験をしましょう。実験の方法を説明します…

学習者主体で授業をデザインすると！

① 子供が自ら問いを発見する

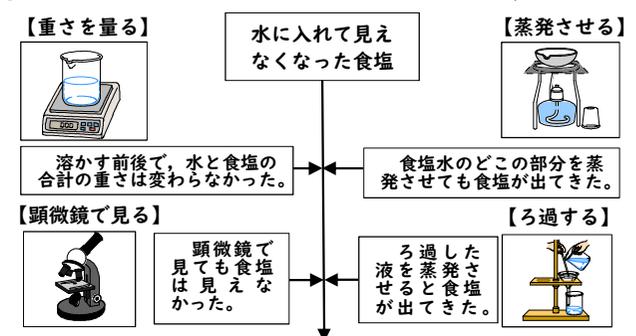


【学習問題】水に入れて見えなくなった食塩は、どうなったのだろうか。

② 子供が解決の方法を見通す



③ 子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する



水に入れて見えなくなった食塩は、顕微鏡でも見えなくらい小さくなり、溶かした分だけ全体に広がっていると考えられる。

④ 子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

先生：食塩を入れていない水と食塩を入れた水比べて、気付いたことや疑問に思ったことを自分で書きましょう。

児童A：見えなくなった食塩はどこにあるのかな。

児童B：食塩は水の中に全てあるのかな。など

先生：みんなの疑問をまとめるとどのような問題になりますか。

児童C：水に入れて見えなくなった食塩は、どうなったのだろうか。でよいと思います。

先生：見えなくなった食塩は、水の中にあるのかな。あるとすればどこにあると思いますか。自分で書きましょう。

児童A：水に入れた分、すべてあるのではないかな。

児童B：水の下の方にたまっているのではないかな。など

先生：予想を確かめるにはどのような実験をすればよいでしょう。変える条件、変えない条件に気を付けて班で3時間分の実験計画を立てましょう。

児童C：食塩の重さを量ってから水に入れて、その分重くなったら全て水の中にあると言えうだね。など

児童D：予想と違って食塩が水全体に広がっていることが分かって驚きました。班で協力して時間や実験方法を調整しながら進められたところがよかったです。など

「学習者主体の授業」実践例

鹿屋市
教育委員会

小学校4年
国語科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

登場人物の気持ちについて、叙述を基に具体的に想像し、自分の考えと友達の考えを比較することで、見方・考え方を広げることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

「自分の問い」に対して、表現や視点などに着目し、言語活動を意識しながら粘り強く解決しようとする。

○ 工夫した点

- 物語を読んで生まれた問いを、観点を基に友達と検討し合いながら精選し、言語活動（物語終末に関する感想交流）の達成に向けて、毎時間自分が解決したい問いを選択させた。
- 自分で学習を進め、学びを俯瞰できるように単元シートを作成した。単元シートは、学習計画、毎時間の振り返り、着目するポイント資料、言語活動、単元全体の振り返りを1枚にしたもので、学習を自己調整できるようにした。
- 何に着目して取り組んだのかを振り返ることで、学びを自覚したり、次の学びへつなげることができるようにしたりした。

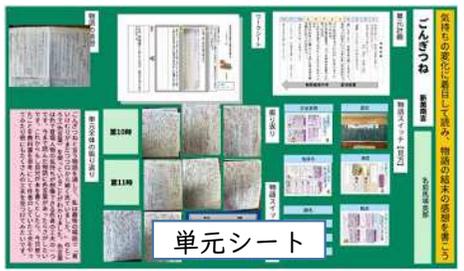
今までの授業では…

【学習課題】

○の場面のごんの気持ちはどのような気持ちなのだろうか。

先生：△の場面のごんは、～な気持ちでしたね。今日は○の場面のごんの気持ちを考えましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

	【児童A】	【児童B】	【児童C】
問いの選択	【自分の問い】 なぜごんは、いたずらをしなくなったのだろう。	【自分の問い】 なぜごんのつぐないは一回で終わらなかったのだろう。	【自分の問い】 なぜごんは、「引き合わない」と感じながらもつぐないを続けたのだろう。
見通し	前時の物語の設定を見てみよう。	ごんの行動に着目してみよう。	心内語を中心に着目してみよう。
解決	<ul style="list-style-type: none"> 【学習方法の選択】 ・自力解決する。 ・協働解決する。 【学習手段の選択】 ・教科書を読む。 ・全文シートを読む。 ・ポイント資料を活用する。 ・「兵十の家配置図」を活用する。 ・「心情曲線」を活用する。 【見方の選択】 ・情景描写に着目する。 ・心内語に着目する。 ・場面の移り変わりに着目する。 ・色言葉に着目する。 		
共有	児童A：物語の設定で、ごんは「ひとりぼっちの小ぎつね」とあったから、・・・～と思ったんだけど、どう思う。	児童B：あ～、つまり、兵十を仲間だと思い始めたってこと？	先生：今日の問いは、児童Bさんの問いと関係あるかもよ。共有したらどうか。
振り返り	今日は「なぜごんは引き合わないと感じているのにつぐないを続けたのだろう。」という問いを解決することができた。着目した物語スイッチは「心内語」で、「おれと同じひとりぼっちか」という言葉から、兵十を仲間だと感じ始めている、だんだん気付いてほしいと思い始めていると思った。なぜならつぐないを置いている場所が変わっているからだ。次は、全体の問いを解決したい。（児童Cの振り返り）		

「学習者主体の授業」実践例

垂水市
教育委員会

小学校5・6年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

- 【思考力、判断力、表現力等】
- 除法の意味に着目し、除法が小数である場合まで数の範囲を広げて、除法の意味を捉え直し、計算の仕方を考えることができる。(5年)
 - 除数が分数となる除法の意味や計算の仕方を面積図、数直線図、計算のきまりを用いて説明することができる。(6年)
- 【学びに向かう力、人間性等】
- 小数の除法が用いられる問題を解決する過程で、計算に関して成り立つ性質を小数に適用するなど解決への見通しをもち、既習事項を活用しようとする。(5年)
 - 除数が分数となる除法の計算のしかたを考え、それらを今後の学習に活用しようとする。(6年)

○ 工夫した点

- 自分の言葉で学習課題を書かせることで、自ら学び考えながら学習に取り組むことができるようにした。
- 前時に本時の学習課題を立て、家庭学習で自分の考え等をまとめ、それを基に、本時はペア及び全体の協働的な学びから始めることで(予習型反転学習)、意見を交流する時間を十分に確保し、自分の考えをより深めることができるようにした。
- 子供たちが取り組む教材(教科書、計算ドリル、AIドリル「Navima」等)を自己選択・自己決定できる場面を設定することで、自ら進んで課題解決に取り組む姿勢を身に付けることができるようにした。

今までの授業では…

【学習課題】
「～を計算するには、どのようにしたらよいか。」、「～をするとき気をつけることは何か。」、「～はどのように求めればよいか。」など、予習型反転学習に取り組んでいたものの、今までの授業は、これまでと同様、全員、同じ学習課題に取り組んでいた。

先生：家で予習してきた課題を解決するにはどんな方法があるかな。
児童A：前回学習した○○を使えばいいと思います。
先生：では今日の学習では…
これまでは、上記のように一部の子供の意見を取り上げ、本時の学習課題を設定していた。

学習者主体で授業をデザインすると！

5年 「小数のわり算」 6年 「分数÷分数」

【学習課題】 小数のわり算の学習の総仕上げを自分の計画に沿って取り組もう。(5年)

【学習課題】 わられる数が整数や帯分数のときの計算はどのようにとけばよいのだろうか。(6年)



学習計画表を配布及びスクリーンに投影し、単元全体及び、本時の見通しをもてるようにした。

【導入】 予習型反転学習における協働的な学び
5年(左写真)：教科書の単元末の問題で、自分が特に学びたい学習課題を選択して、家庭学習に取り組んだ。本時での各自の学習課題を確認した後、学習課題に迫るための方法について教師がカードに整理した。
6年(右写真)：家庭で取り組んだ方法や考えを交流し、学習課題の解決を行った。学級の実態から、単元を通して、約分を特に意識して正しく解けているか確認しながらお互いに説明をする活動を取り入れた。



家庭での予習を基に、自分の言葉でめあてを考え、授業前にホワイトボードに記入させた。



【展開】 子供たちが取り組む教材や学習形態を自己選択・自己決定できる場面を設定

- 学習計画表を基に、各自が取り組む学習課題や教材を選択する。
- 見届け問題を確認し、お互いに理解を確認し合いながら学習を進める。
- 他の教材を活用し、自分で選択した問題を解く(計算ドリル「item」、AIドリル「Navima」等)。



児童名

考え中(自分で解きたい)
見届け問題中
友達と考え中
スタンバイ
考え中(自分で解きたい)
振り返り中

面積が26cm²の平行四辺形があります。底辺の長さは2 $\frac{3}{5}$ cmです。高さは何cmですか。

【協力問題】素数13で約分することに気付かせるために担任が作成

Googleスプレッドシートを活用して子供の学習状況を把握効果的な同時間接指導の展開

協力して問題を解き合う場面を意図的に設定した。学んだことを確かめ合ったり言語化したりすることで、学習内容への理解を深められるようにした。

【終末】 子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

各自が立てた学習課題に対応するまとめを、振り返りシートに自分の言葉で書かせた。このことにより、学習課題に対する達成度を自覚させた。また、振り返りで、自他の問題解決のよさを書かせたことにより、本時の学習における自他の成長を実感させることができた。

+ 分数÷分数では素数をおぼえておけば約分の時に素数を見つければ「速く・簡単」に計算できることが分かってうれしかった。

- 約分を忘れていた時があった

→ 約分子チェックをするときに約分がないか確かめる

左記の手立てを通して、単元全体を通して学びに向かう力が高まる子供の姿が見られた。

振り返り・まとめは、5・6年合同で行い、異なる学年の課題解決の方法のよさに気付けるようにした。



「学習者主体の授業」実践例

曾於市
教育委員会

小学校4年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

面積の単位とその関係や、長方形と正方形の求積公式について理解し、公式を用いて面積を求めることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

単位の考えを用いたり、図形の構成要素に着目したりして、面積の表し方や複合図形の面積の求め方、単位の関係について考え、説明することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

面積を数値化して表すよさに気付き、生活や学習に生かそうとする。また、複合図形の面積の求め方について、学び合いにより、友達の考えのよさを取り入れたり、自分の考えをより強固なものにしたりし、多面的に考え、よりよい方法を追求しようとする。

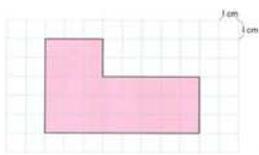
○ 工夫した点

- 前時を振り返り、既習事項を活用して解決させる課題に取り組ませた後、より発展的な課題を提示することによって、学ぶ意欲を高めるようにする。
- 分からないときは、友達と相談してよいというルールの下、聴き合う関係を大切に学習を進め、教師は「聴く・つなぐ・もどす」を意識した声掛けで児童をつなぐようにする。

今までの授業では…

【学習課題】

次の図形の面積は、
何 cm^2 になるでしょう。

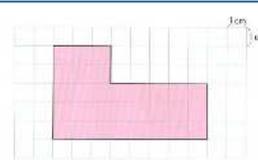


先生：どうやって求めたらよさそうかな。
児童A：マス数を数える。
児童B：3つに分ける。
児童C：2つに分ける。
先生：まずは、自分で考えてみましょう。終わった人は、説明を考えたり、別のやり方で解いたりしましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】（共有の課題）

次の図形の面積は、
何 cm^2 になるでしょう。



先生：前時ではどんなことを学習したかな。
児童A：正方形と長方形の面積を求めました。
先生：そうだったね。じゃあ、これは求められそうかな。

児童B：変な形だ。

児童C：正方形、長方形じゃないね。

児童D：正方形、長方形ならできるのね。

先生：なるほど。正方形、長方形ならできるんだね。どうしたらいいんだろうね。分からないときは、友達に尋ねて構いません。では、やってみましょう。

子供が自ら問いを発見する。

子供が解決の方法を見通す。

教師が「聴く・つなぐ・もどす」の声かけを徹底することで、
子供たちの学び合いが進んでいく。

児童E：先生、分かりません。

先生：どうしたらいいんだろうね。Aさんに尋ねてみたらいいかもね。

先生：おっ！こんなやり方があるんだね。

児童F：えっ！何々、どんなやり方？

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返して協働する。

子供の発表により、考えを共有し、まとめる。

先生：じゃあ、ちょっと難しい問題いくよ。

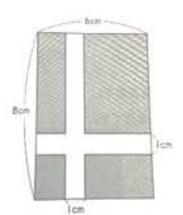
児童G：やったー！

児童H：えっ！何これ？

先生：では、どうぞ。

【学習課題】（ジャンプの課題）

次の図形の色のついた部分の面積は、何 cm^2 になるでしょう。



子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返して協働する。

教師が「聴く・つなぐ・もどす」の声かけを徹底する。

先生：それでは、今日の振り返りをしましょう。

必ず、友達の考えにも触れるようにしましょう。

児童I：Aさんの考えと同じだと分かって自信がついたよ。

児童J：Bさんの動かす考え方が分かりやすかったな。

児童K：Cさんの方法を聴いて、1つの長方形にすればよいと気付いたよ。

児童L：もっといろいろな形の面積を求めたいな。

児童の実態に合わせて、効果的にタブレット端末を活用する。課題の提示、課題解決時の活用、考えの共有等

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす。

友達の考えに触れたことを振り返ることで、つながりを感じさせる。

「学習者主体の授業」実践例

志布志市
教育委員会

小学校5年
国語科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

互いの立場を尊重しながら、意見や根拠を基に自分の考えと比較しながら話し合おうとする。

○ 工夫した点

- 自分の意見を明確にするために、考えを視覚化した。具体的には、シンキングツールの座標軸を使って、立場や意図を明確にしながら話し合い活動を進められるようにした。
- 複式学級のみよさを生かして、ガイドを進行役にし、自分たちで進められるようにした。

今までの授業では…

【学習課題】

互いの立場を明確にしながら、計画にそって話し合おう。

- 先生：互いの立場を明確にして話し合うにはどうすればよいですか。
 児童A：相手の意見と自分の考えを比べながら聞けばよいです。
 先生：そうですね。他にありませんか。
 児童B：相手の話を最後まで聞くとよいです。
 先生：そうですね。それでは話し合いを始めましょう。

立場を明確にして話し合う重要性は分かっているが、実践に移せない。比較しながら聞くにはどうすればよいのか、具体的な手立てがない。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

どうすれば、自分の考えを相手の意見と比較しながら話し合うことができるだろう。

本時のねらいの確認

- 先生：今日は、ふわふわ言葉を学校中に広めるにはどうすればよいか話し合います。どんなことに気を付けて話し合えばよいでしょう。
 児童A：自分の考えと相手の考えを比べながら話し合えばよいです。



子供が自ら問いを発見する

- 先生：どのようすれば比べやすいかな？
 児童B：黒板などに意見が書いてあれば比べやすいね。
 児童C：皆が納得する意見が書いてあればいいね。
 先生：どうすればみんなが納得できる意見になるかな。

子供が解決方法を見通す(再確認する)

よりよい話し合いのポイントの共有

- 児童D：そうだ！理由や根拠を言えばいいんじゃない？
 先生：なるほど。理由や根拠を明確にして意見を書いて話し合えばいいですね。

シンキングツールの「座標軸」を使って話し合いをしてみたらどうか。自分の意見を短冊に書いて、黒板の座標軸に、自分の考えのより近いところに貼ってくださいね。

- 先生：では、ガイドさん、進行をお願いします。



試行錯誤しながら意見をまとめる

- 児童E：私は、Aさんの意見に近いから、ここだな。
 でも、理由が少し違うな。
 児童A：確かに。なぜそう考えたの？
 児童E：だって、・・・だから。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する。

意見の共有集約

- 児童F(ガイド)：今、意見がほしい4つのグループに分かれました。それぞれのグループの考えを発表してください。

～それぞれが書いた黒板の座標軸を基に比較しながら説明する～



ふり返り

- 児童F(ガイド)：振り返りを発表してください。
 児童B：意見をグループ分けすると、比較しやすかったです。
 児童C：自分の考えとの違いが明確になって、話し合いがしやすかったです。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

シンキングツールを使って意見を視覚化したり、グルーピングしたりすることで話し合いの内容が焦点化できた。
 児童から出た言葉で授業を展開することで、学びに向かう意欲も高まった。

「学習者主体の授業」実践例

東串良町
教育委員会

小学校4年
理科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

空気中の水蒸気は、結露して再び水になって現れることがあることを理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

自然界の水の様子について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決をすることができる。

○ 工夫した点

- 前時まで行ってきた「蒸発実験」の道具を残し、空気中にどんどん水が蒸発していくことを印象付け、蒸発した水を元に戻したいという意欲を高めた。
- 班ごとに冷やしたビーカーと冷やしていないビーカーを用意（比較）し、それに併せて中に水を凍らせたタッパーも用意した。一つの物だけでなく同じ現象が起きる別の物を用意することで児童の思考が深まるようにした。
- 実験の動画を録画し、何度も見直せるようにした。

今までの授業では…

【学習課題】

ビーカーのまわりについているものについて調べよう。



- 先生： ビーカーのまわりに付いているものはなんだと思いますか。
- 児童A： 水だと思います。
- 先生： そうですね。水です。では、なぜ水が付いたのか分かりますか。
- 児童B： ビーカーが冷たかったからだと思います。
- 先生： よく分かりましたね。冷たいビーカーに空気中の水が冷やされて水に戻ったのです。これを「結露」と言うんですよ。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

蒸発した水は、再び目に見える姿にもどるのだろうか。



【授業の導入にて】

先生： 前回の実験から冷やしたビーカーに水滴が付くことは分かりましたね。水を入れて凍らせたペットボトルの周りにも水滴が付いていますね。これは、なぜだと思いませんか。

児童A： ペットボトルの中の水がしみ出したのだと思います。

児童B： それはありえないよ。ペットボトルは水を通さないよ。

先生： そうですよ。もし水がしみ出すのなら鞆に入れるとびしょびしょになりますよね。

児童B： **それなら、なんで表面に水滴が付いたのだろうか？**

【問いの発見】

児童D： 蒸発して空気に出て行った水が関係しているのかも。

先生： **実験の結果から考えたことをロイロノートのテキストに書いて提出してください。その後、グループで考えましょう。**

【解決方法の見通し】

※ 課題解決に取り組む。

【授業の展開にて】

先生： それでは、なぜ水滴が付いたか、自分の考えを話した後、グループで話し合って答えをまとめてください。また、氷を入れたタッパーもヒントにしてください。

児童A： **ビーカーの中には水はないので、空気中にある水が付いたと思います。**

児童B： **蒸発の時は日光に当ててあたためたら蒸発したから、冷やしたら水になったのかもと思いました。**

児童C： **冷やしていないビーカーには水滴は付かないし、氷が入っているタッパーはどんどん水滴が増えていっているから冷やすと空気に出て行った水は元の水になると思います。**

【試行錯誤、協働】

【授業の終末にて】

先生： **今日の授業を振り返って分かったことや気付いたことを振り返りカードに書きましょう。**

【学びの振り返り】

児童A： 蒸発した水は冷やされると再び目に見える姿になることが分かりました。

児童B： 再び目に見える姿になることを「結露」というのを知りました。

先生： **では、今日学んだことを生かして、発展問題に取り組んでみましょう。**

【学びの深化】



「学習者主体の授業」実践例

錦江町
教育委員会

小学校6年
算数科



学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

学校内にある木などのものの高さを比を利用して測ってみよう。



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

比の意味や表し方、比の相当の意味を理解し、2つの数量関係を調べて比で表したり、等しい比をつくったりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

日常の事象における数量関係に着目し、比を用いた関係の比べ方を既習の割合と関連付けてとらえることができる。

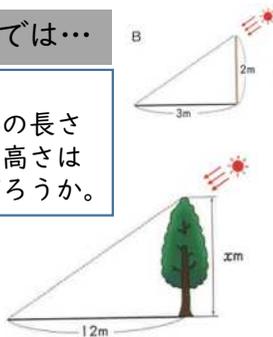
○ 工夫した点

- 比の関係を利用することで、木の高さを求められることを知ること、学校内に実際にあるものの高さを測ってみようという意欲付けをする。
- グループ毎にタブレット等を活用しながら活動させる。
- 比を利用して求められることを実感することで、この後の単元の拡大図と縮図につなげていく。

今までの授業では…

【学習課題】

棒の長さや影の長さの関係から木の高さを求められるのだろうか。



先生：校庭に立てた棒の高さと影の長さの比はいくらですか。

児童A：2対3です。

先生：では、同じ時刻の木の影の長さが12mだと木の高さは何mになるか求められますか。

児童A：等しい比の性質が利用できるんじゃないかな。

子供が自ら問いを発見する

※前時の振り返りから

児童：学校の木の高さは何mなのだろう。

～本時～

先生：机の長さや廊下の長さは、ものさしや巻き尺を使って測ることができます。では、学校にあるアコウの木やイチヨウの木の高さはどうでしょう。

児童A：脚立を使えば測れる。

児童B：1mものさしが何本分かで測る。

児童C：影の長さが分かればできるかも。

先生：何が分かれば高さを求められるのか、実際にやってみましょう。

子供が解決の方法を見通す

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

児童B：1mものさしで測ってみたいけど、上まで届かないな。

児童C：昨日教科書では、木の棒と影の長さの比から、木の高さを求めたよ。

児童A：木の棒が80cm、木の棒の影が1m60cm。

児童C：木の棒：木の棒の影は、1：2になるね。

先生：実物とその影の長さの比は分かったんだね。では、今知りたいことは何かな？

児童B：アコウの木の高さ。でも測れない。

先生：実物は測れないということだね。どうしよう？

児童C：アコウの木の影の長さなら測れる。

児童A：影の長さは15m10cmだったよ。

児童C：アコウの木の高さをXにして比を使って求めよう。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

先生：活動を振り返って、何が分かれば高さを求められると気づきましたか。

児童D：アコウの木の影の長さ。

児童E：木の棒とその影の長さの比。

先生：実物とその影の長さの比が分かれば、大きいものの高さも求めることができるのかもかもしれませんね。

児童F：校舎の高さも影の長さから求められるの？

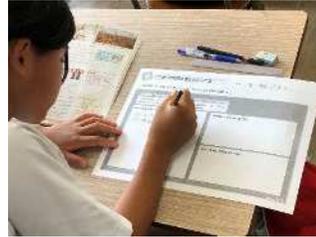


$$\begin{array}{l}
 \text{棒 } 80\text{cm} \quad \text{影 } 15\text{m } 10\text{cm} \\
 1\text{m } 60\text{cm} \quad \quad \quad X \\
 80 : 160 = 1 : 2 \\
 X : 1510 = 1 : 2 \\
 X = 1510 \times \frac{1}{2} \\
 X = 755 \\
 \text{答え } X = 755 \text{ } 7\text{m } 55\text{cm}
 \end{array}$$

「学習者主体の授業」実践例

西之表市
教育委員会

小学校5年
社会科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

日本の食糧問題や食への安心・安全への取組について理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

これまでの学習をもとに、日本の食糧問題や、安定した食料を確保し続けるためにはどんなことが大切か、自分なりの考えをもつことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

学習したことをもとに、これからの食料生産について考えようとする。

○ 工夫した点

- 学習内容を振り返り、これまでに出てきた日本の食料生産における複数の課題から、日本の食料生産をもっとよい方向に進めるための個人の課題(自己目標)を設定した。
- 課題の内容やまとめる方法を子供が自己選択・自己決定し、ロイロノートで色別に提出することで、同じ内容や同じ方法で取り組んでいる友達が分かるようにした。

今までの授業では…

【学習課題】

食料を安定して確保し続けるためには、どのようなことが大切になるのだろうか。

- 先 生：これまで農業や漁業の課題について学習してきました。どんな課題があったかな。
- 児童A：農業や漁業で働く人が減っている。
- 児童B：食料の多くを輸入に頼っている。
- 先 生：じゃあ今日は、これからの食料生産をどのように進めていけばいいか調べましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

日本の食料生産がもっとよい方向に進むアイデアはないか、これまでの学習をもとに自分なりの考えを書こう。

- 先 生：日本の食料生産についてどんな課題がありましたか？
- 児童A：食糧自給率が低い。
- 児童B：働き手が減っている。
- 児童C：今後、食べ物がなくならないか不安。

- 先 生：このままの日本でいいのだろうか？
- 児童A：駄目。食料が手に入らなくなる。
- 児童B：でも、どうしたらいいのだろうか。



- 先 生：これまで学習したことをもとに課題を整理して、日本の食料生産がもっとよい方向に進むアイデアを考えてみよう。
- 児童A：私は、働き手を確保するために農業法人をつくると思う。
- 児童B：食品ロスを少なくする取組がいいかな。
- 児童C：安心安全に輸入するといよ。

- 先 生：皆さんだったら、どんな取組をしていけばよいと思いますか。実現できたらよいと思うことを考え、意見文を書いてみよう。



- 児童A：私は、一人でロイロノートにまとめてみよう。ロイロノートで、新聞みたいに作ってみようかな。
- 児童B：〇〇さんは、Googleスライドで作成しているから、一緒にやってみようかな。

- 先 生：取り組む課題やまとめる方法を、ロイロノートで色別に提出しましょう。そして、同じ課題や同じまとめ方の友達と一緒に考えてみよう。
- 児童A：Googleスライドで共同編集すると、一緒にできるね。

- 先 生：一人一人がつくった意見文について、質問や意見を出し合ってみよう。そこから学んだことや考えたことについて、まとめてみよう。

- 児童A：持続可能な食料生産について動画も活用しよう。



子供が自ら問いを発見する

子供が自己目標を設定し、解決の方法を見通す

子供が課題解決について自己選択・自己決定し、協働する

子供が自己省察し、次に生かす

「学習者主体の授業」実践例

中種子町
教育委員会

小学校5年
算数

○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力・判断力・表現力等】

三角形を既習図形（長方形や平行四辺形）に等積変形や倍積変形して、面積を考えることができる。

○ 工夫した点

- 平行四辺形を長方形に等積変形して面積を求めたことを生かして三角形の面積を求めるために、様々な学び方を自己選択できるようにして、個別最適の学びの充実を図った。
- 児童の考えを全体で共有することによって、多様な考え方にふれさせ、協働的な学びの充実を図った。

今までの授業では…



【学習課題】

三角形の面積を求めよう。

【展開】

一人で考えてみよう

↓

ペア・グループで話し合おう

↓

学級全体で話し合おう

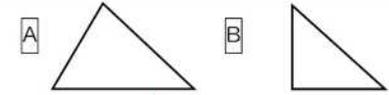
学習者主体で授業をデザインすると！

【学習問題】

三角形の面積は、どのように求めたらよいだろうか。

子供が自ら問いを発見する

次のような三角形の面積の求め方を考えよう。



子供が解決の方法を見通す

先生：どうしたら三角形の面積を求められそうですか。

児童A：平行四辺形の面積を求めたときのように面積を変えずに形を変えてみたらよいかも。

児童B：長方形や平行四辺形に形を変えたら、面積を求めることができるな。

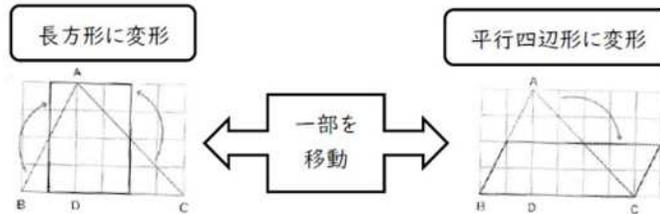
先生：いろいろな方法で試したり友達に伝えたりしましょう。

児童C：一人で出来そうだから、まずは一人でやってみよう。

児童D：自信がないから、友達と一緒に考えたいな。

児童E：全然分からないから、友達の考えを見て、参考にさせてもらおう。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する



児童A：ワークシートを使って、長方形に変えて考えてみたよ。

児童B：大型モニターで図を見せながら面積の求め方を説明します。

児童C：一人で考えた後に、友達と相談していたら、別の求め方を思いついたよ。

児童D：同じ形を2つ組み合わせて長方形にしていた友達の考えにびっくりしたなあ。

児童E：友達の考えを参考にしたら、自分で面積を求められたよ。



子供が自らの学びを振り返り、次に生かす



「学習者主体の授業」実践例

南種子町
教育委員会

小5・6年
複式指導 算数

○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 5年生 等積変形・倍積変形の考え方をもち、ひし形の面積の求め方を考えることができる。
- ・ 6年生 図形の中にある点を中心とした拡大図や縮図のかき方を考えて作図することができる。

○ 工夫した点

- 各学年の発達段階に応じて、学習の手引きを活用し、児童が主体的に学習を進めるガイドとそれを支えるフォロワーを育成する。
- ルーブリックを作成し、めざす子供像を明確にして、それに対応する手立てを考える。

グレード	内容
グレード③	自分の考えを簡潔に明確にして、適切な表現を用いて相手に説明することができる。(A評価)
グレード②	自分の考えを、視覚を主に説明することができる。(B評価)
グレード①	自分の考えを自分だけの言葉で説明することができる。(C評価)

今までの授業では…

【5年生学習課題】

ひし形の面積の求め方を考えよう。

先生： この図形はひし形といいます。この図形の面積はどのように求めればよいのでしょうか。

生徒A： 平行四辺形や三角形のときみたいに形を変えたらよさそう。

話し合いの時間の不足

生徒A： 前回の学習の復習をしましょう。

ずらしの時間が必要

【6年生学習課題】

図形の中にある点を中心とした拡大図をかこう。

先生： この図形の中にある点を中心とした拡大図をかくにはどうすればよいのでしょうか。

学習者主体で授業をデザインすると！

【5年生学習課題】

ひし形の面積の求め方を考えよう。

生徒A： この図形の面積はどのようにもとめればいいのか。

生徒B： 平行四辺形や三角形のときみたいに形を変えたらよさそうだよ。

生徒C： 今度は形を変えるのは難しそうだな。

生徒A： めあては「ひし形の面積は、どうすれば求められるのだろうか。」にしよう。

子供が自ら問いを発見する

生徒B： 2つの三角形に分けられるよ。

生徒C： 長方形にすることができるぞ。

先生： いろんな方法で求められるけど、三角形や平行四辺形のように公式にすることはできないかな。

考えを深めるための問い返し

生徒A： どの方法も対角線の長さを使ってるね。

生徒B： 2でわらないといけないよね。



学びを見守る



学習の支援



子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

同時導入が可能

【6年生学習課題】

図形の中にある点を中心とした拡大図をかこう。

生徒A： 点を中心とした拡大図をかくにはどうすればいいかな。

生徒B： 辺はないから、どこの長さを伸ばせばいいのかな。

生徒C： 辺を伸ばせばよかったよね。

先生： Bさんが言ったように辺がないから、辺は伸ばせないね。どうすればいいかな。

生徒C： うーん分からない。1人では難しいから友達と考えようかな。

子供が協働し、課題解決まで試行錯誤を繰り返す。

生徒A： 点と頂点を結んで2倍すれば、拡大図がかけられるね。

先生： 本当に拡大図になっているのかな。どうすればたしかめられたかな。

生徒A： みんなで角度や辺の長さを確かめてみよう。



「学習者主体の授業」実践例

奄美市
教育委員会

小学校2年
国語



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

登場人物（みき）の内面に「寂しさ」や「感謝」「決意」等の気持ちが生まれていることに気づき、描かれていない挿絵の登場人物の表情について、自分の考えを説明することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

言葉等に注目して、進んで場面と場面を比較したり、叙述を関係付けたりしようとする。

○ 工夫した点

- 児童の学習意欲を高めるために、単元のゴールを「なかよしプロジェクト～絵本を紹介し合っとなかよくなる～」と設定し、目的意識や相手意識をもたせる。
- 自己選択や自己決定の力を高めるために、ペアやグループなどの「学習形態・スタイル」や、どのぐらいの時間が必要かなどの「学習時間・ペース」などを選択・決定させる。

今までの授業では…

【学習課題】

みきの表情について、「気持ち」「様子」「会話」などの視点を使って考えよう。

- 先生：最後の挿絵では、みきはどんな表情をしているのかな。
児童A：分かりません。
児童B：○○な顔をしていると思います。
先生：それでは、今日はみきの表情について考えていきましょう。
視点には○○や△△などが使えそうだね。

※ 児童に問いをもたせていない。読みの視点を教師から与えている。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

みきはどのような表情をしているのだろうか。



先生：これまで、どんな学習をしてきたかな。

児童A：これまで～の学習をしてきました。

先生：どんな「読みの視点」を使ってきましたか。

児童B：○○や△△などの視点を使ってきました。

前時までの視点や学習内容、
学び方を想起する

先生：（これまでの場面の挿絵と第四場面の挿絵を比較させた後に、）
どうして、みきの表情が最後の挿絵だけ分らないのかな。

児童A：他のページにはあるのに変だね。

児童B：どうしてないか考えてみたいです。

先生：それでは今日はどんな問いにすればいいかな。

→ 児童の発表から学習課題を設定する。

子供が自ら問いを発見する

先生：どのような「読みの視点」を使うことができるかな。

児童A：「気持ち」や「様子」を使うことができそうです。

児童B：「会話」や「行動」も使うことができそうです。

先生：これまで使ってきた「読みの視点」が使えそうだね。

子供が解決の方法
を見通す

先生：どうやって学習を進めていきますか。

児童A：グループで考えていきたいです。

児童B：一人で進めたいです。

児童C：○○ルームで学習したいです。

先生：時間は、何分必要かな。

児童D：○分あればいいです。

子供が学習形態を決定する

子供が学習時間・ペースを決定する

子供が（明確な見通しをもって）試行錯誤を繰り返す

児童A：（教室及び特別教室でのペアやグループでの協働的な学び。）

○○な表情だと思う。△ページに～と書いているよ。

児童B：僕も○○な表情だと思う。僕は、□ページの～部分に線を引いたよ。

児童C：私は☆☆な表情だと思います。理由は～だからです。

先生：（児童の様子を把握し、必要に応じて個別指導を行う。）

先生：みきはどのような表情をしているのかな。また、その根拠は何かな。

児童A：私は○○な表情だと思います。理由は～と書いてあるからです。

先生：それでは、本日の学習について、振り返りの視点を基に振り返ってみましょう。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

「学習者主体の授業」実践例

大和村
教育委員会

小学校5年
社会科

○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

身のまわりの工業製品を探しだし、分類することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

工業製品に関する興味関心や疑問を基に、学習問題を考えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

自己の考えを分かりやすく伝えようとするとともに、他者の考えを理解しようとする。

○ 工夫した点

- 今里小学校と名音小学校の5・6年複式学級でオンラインを活用し、5年生は今里小学校の教諭が、6年生は名音小学校の教諭が中心となって指導することで、児童が対話をしながら学びを深めることができるようにする。
- 両校児童が協働して課題を解決するために、ロイロノートやTeamsを活用し、お互いの考えを自由に交流し、議論する場を設定する。
- 学びを深め、次に生かすために、振り返りの視点を明確にする。

今までの授業では…

【学習課題】身のまわりにある工業製品を分類してみよう。

先生： 前单元では、食料生産について学習しました。本单元からは、工業生産について学習していきます。私たちの身のまわりには、いろんな工業製品があります。どんなものがありますか。

児童A： パソコンやテレビ、タブレットです。

先生： 他にないかな。

児童A： 机やイス、鉛筆、消しゴムもかな

先生： そうですね。まだないかな。

5年児童が1人しかいないため、担任とのやりとりになっており、一問一答になっている。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】身のまわりにある工業製品について話し合い、学習問題をつくろう。

先生： 前单元では、食料生産について学習しました。本单元から工業生産について学習していきます。では、私たちの身のまわりには、どんな工業製品がありますか。（ロイロノートを活用）

身近なものであることを気付かせ、興味・関心を高める



【ロイロノートの画面】

先生： みなさんが出してくれた工業製品から、調べてみたいことや疑問に思っていることを挙げてください。（ロイロノートを活用）



【5年生の学習の様子】

子供たちに問いをもたせる

児童A： ぼくは、工場でどのように作られているか調べたい。

児童F： どんな場所で作っているのかな。

児童D： 1日にどれくらい作られているのか調べてみたい。

児童B： 自動車って、どうやって作っているのかな。

先生： では、みなさんが出してくれた疑問や調べてみたいことを基に、本単元の学習問題を立てましょう。

【学習問題】 私たちの生活を支えている工業製品は、どこで、どのようにつくられているのだろうか。

先生： 学習問題を追究していくために、みなさんが出してくれた調べてみたいことや疑問をもとに、追究の柱を立てましょう。

子供同士の話し合いの中から追究の柱を決定する

児童A： どんな所で作られているかという疑問が多いね。

児童C： どのように作られているか。働いている人の様子も必要だね。

児童E： いろんな工業製品があるから、それぞれの特徴も調べたいね。

「学習者主体の授業」実践例

宇検村
教育委員会

小学校5年
社会科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

資料を読み取り、情報を適切にまとめることなどを通して、自動車生産を支える人々の工夫や努力を理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

消費者の需要や社会の変化と自動車生産を関連付けながら、自動車生産を支える人々の工夫や努力について考え、表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

自らの学習状況を把握しながら、課題解決に向けて粘り強く学習を進めようとする。

○ 工夫した点

○ 個別の学習計画表(ロイロノート)の作成・活用

単元の進め方を構造化してまとめた学習計画表の中に、計画・状況・振り返りのアンケートを作成し、教児ともにいつでも確認できるようにすることで、自己調整をしながら課題を追究できるようにする。

○ ワークシート・学習教材の活用

教科書の重要なグラフや表などを添付したワークシートを活用し、自分に合った方法で学習を進めさせる。児童の言葉で学習をまとめるようにする。

今までの授業では…

【学習課題】自動車づくりにたずさわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのような工夫や努力をしているのでしょうか。

- 一律の学習課題や方法… 学習課題、ペース、方法、学習内容を自己選択、自己調整できない。
- 制限されたまとめ方… 学習の成果物や振り返りの方法を固定化し、児童の得意分野や多様な考えに制限をかけてしまう。
- 学習者が受け身の学習… 個々の興味関心のある課題設定ができず、学習に主体性が生まれにくい。

学習者主体で授業をデザインすると！

自ら問いを発見する(工夫①)

単元内自由進度学習(学習課題の選択)ア〜クにかけて易しい順
 ア：自動車は時代とともにどのように変化してきているか。
 イ：自動車は日本経済を支えていると言えるか。
 ウ：自動車はどのような連携や工夫をして作られているか。
 エ：日本の自動車はどのようにして世界にこれほどまでに人気なのか。
 オ：これからの日本のミライの自動車とは。
 カ：環境に優しい自動車とはどんな自動車なのか。
 キ：交通事故ゼロをめざす自動車とは。
 ク：自動車は空を飛ぶべきか。

児童自ら単元全体の課題を選択

全員一律の学習課題ではなく、個別に選択できる課題を用意し、選択した課題に向かって学習を進めさせる。

学習の成果物

学習したことをまとめる方法についても自己決定させる。
 例：新聞、スライド、動画、ニュース番組等

解決の方法を見通す(工夫②)

※ 写真は、学習計画表

単元	単元	単元	単元	単元	単元
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12

学習計画表に、選んだ学習課題・自分のめあて・ペアのめあてを記入し、単元全体の計画と家庭学習の計画を立てさせる。学習の方法としては、教科書・資料集・地図帳・eboard・ヒントカード・NHKforSchoolを活用させる。また、ロイロノートのアンケート機能で作成した、計画・状況・振り返りカードに基づいて、互いに友達の状況を把握しながら学習を進めさせる。

試行錯誤を繰り返す、協働する(工夫③)

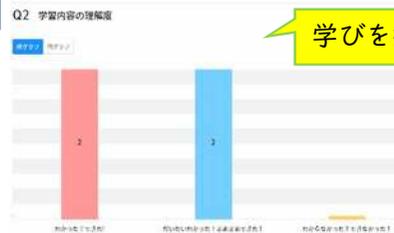
※ 写真は、状況カード

ペアで選択した学習課題の解決に向けて、役割分担しながら調べ学習を行わせる。学習内容が計画どおりにいかなければ、再度計画を変更したり、理解できなかった内容を、もう一度学び直したりすることもできる。教師は、状況カードで児童の学習状況を把握し、課題解決に向けた助言を行う。また、常に中間指導をしながら、支援や助言、問いをもたせる発問等を行う。



学びを振り返り、次に生かす(工夫④)

※ 写真は、理解度のグラフ



振り返りカードに、達成度・理解度・感想を記入させる。また、達成度に応じて計画を変更したり、学習方法を考え直したりするなど、自己調整しながら学習を進めることができるようにする。教師は、児童の達成度や理解度に応じて次時の支援につなげる。

「学習者主体の授業」実践例

瀬戸内町
教育委員会

小学校5・6年
社会科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

- 5年： 必要な情報を集め、読み取り、日本の各地で様々な工業製品が作られていることについて理解することができる。
- 6年： 必要な情報を集め、読み取り、徳川家光の政治と江戸幕府による大名統制の仕組みについて理解することができる。

○ 工夫した点

- 単元内自由進度学習を行うことで、児童自身が主体的に学習に取り組む態度や学習を自己調整する力を育てることができるようにした。
- スプレッドシートを活用して、学習内容をGoogleスライドにまとめさせたものを振り返らせたり、友達のスライドを自由に参考にさせたりして、ICTを活用した学習環境を整備した。
- Google meetを活用して、他校との意見交換を行った。

今までの授業では…

- 全員が共通の内容を同じ方法・同じペースで取り組んでいた。

先生：教科書の〇〇ページを見て、〇〇について調べましょう。

児童：調べ終わったらどうすればいいですか？

先生：調べたことをノートにまとめましょう。

先生：まとめたことを1人ずつ発表してください。

※ 児童が学習に対して受け身になる姿が目立っていた。

学習者主体で授業をデザインすると！

【5年：学習課題】

わたしたちの生活を支えている工業生産は、どこでつくられているのだろうか。

【6年：学習課題】

徳川家康が開いた江戸幕府は、徳川家光にどのように受けつがれたのだろうか。

① 見通しをもつ

- 先生： 学習計画表を開いて、今日学習することを確認し、**スプレッドシートにこの時間のめあてを立てましょう。**
- 先生： **めあてを立てたら、友達のためあても確認しましょう。**
- 児童： 〇〇さんとめあてが似ているな。協力できるところは一緒にやろう。
- 児童： 今日はこの内容まで進めたいな。学習を頑張ろう！

② 調べる・まとめる

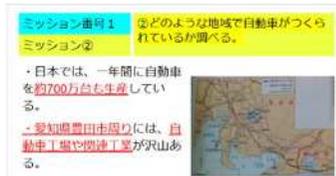
- 先生： 教科書を中心に、資料集やインターネットも活用して、調べたことをまとめていきましょう。スライドにまとめる時は、キーボード入力・カメラで写真を撮って貼り付けるなど、**自分自身のスキルや学習内容に合ったまとめ方を選択**しましょう。
- 先生： **困った時には、友達のスライドを参考にしたり、直接友達に聞いても大丈夫**ですよ。
- 児童： わたしはキーボード入力が苦手だから、ノートを写真に撮って、スライドに貼り付けよう。
- 児童： どうまとめたらいいか悩むなあ。〇〇さんのスライドを参考にさせてもらおう。

③ 共有する・振り返り

- 先生： 自分が**今日の学習で学んだことを中心に、スプレッドシートに振り返り**を書きましょう。どんな学びがあったかが分かるように具体的に書けるといいですね。
- 先生： 振り返りが書いたら、**友達のリターンや今日まとめたスライドを見て、今日の学びをみんなで共有**しましょう。
- 児童： 〇〇さんとまとめた内容は同じだけど、着目する観点やまとめ方が違うぞ。次にまとめる時の参考にしよう。
- 児童： 〇〇さんはスライドにまとめるのが上手だな。まとめるコツを教えてください。



友達のスライドへのリンクをまとめたシート



実際に児童がまとめたスライドの例



【学習内容を共有する様子】

「学習者主体の授業」実践例

龍郷町
教育委員会

小学校1年
国語科

「教える」から
「学ばせる」へ

○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識・技能】

事柄の順序など情報と情報との関係について理解できる。

【思考力・判断力・表現力等】

「読むこと」において、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。

「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかしいたいことを見つけようとする。

○ 工夫した点

- 主体的な学びを支える基本的な学習技能を鍛える。
(机上の整理、音読、筆記用具の使い方、話の聞き方)
- 子供たちの言葉で学習課題を設定させたり、まとめを書かせたりする。
- 自分の考えを主体的に表現させるために、友達と共有する場を設ける。
- 協力して問題を解決させるために、ペア活動の場を設ける。

今までの授業では…

- 先生主導のチョーク&トークで「はしご車」の「しごと」と「つくり」を調べていた。
- 子供同士の協働的な学びが少なく、学びのアウトプットが少なかった。
- 協働的に学ぶ場が少なく、子供同士が互いの学びを認め合う機会が少なかった。
- 「まとめ」を先生が行い、子供はそれを写していた。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

「はしご車」は、どんな「しごと」をして、そのために、どんな「つくり」になっているのだろう。



主体的な学びの基礎となる学習技能の定着

子供が自ら問いを発見する…自分の言葉で「めあて」をつくる経験を設定



掲示を使用し、前時までの学習を想起させる



「はしご車」の絵を提示し、今日のめあてを問いかける

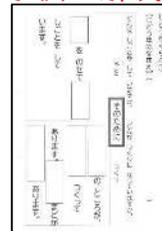
先生：今日のめあては、何になるかな？

教師は子供の言葉を待って、つなげる

児童A：はしご車には…。
児童B：「しごと」と「つくり」だよ。
先生：いいね。じゃあ、言葉をつなげてみるとめあてはどうなるかな？

前の時間の学び方を生かして、自分で書けるよ！

子供が解決の方法を見通す



子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する



資料をもとに「しごと」と「つくり」を見つけ線を引く



資料を示しながら友達に説明する

児童A：ここに「しごと」が書いてあるよ。
児童B：「つくり」のところはここにあった！
児童C：はしご車は、はしごをのばすために、しっかりしたあしがあるよ。

子供が互いにアウトプットする場を積極的に設定する

「学習者主体の授業」実践例

喜界町
教育委員会

小学校3年
国語科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまり、段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える。

【学びに向かう力、人間性等】

目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたり、それらを明確にして文の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫を生かした文章を書こうとする。

○ 工夫した点

- 見通しをもって学習に臨ませるために、導入時に単元の目標や既習事項を視覚的に確認する。
- 粘り強く学習に取り組ませるために、個人で解決する時間の確保やペアやグループで教え合ったり、担任からヒントをもらったりするなど学習形態を工夫したり、個に応じて異なる方法で問題解決できるようにしたりする。

今までの授業では…

【学習課題】

「すがたをかえる大豆」の説明の順番はどのようになっているだろう。



先生： 本文「すがたをかえる大豆」はどのような順番で例を書いているかな。

児童A： すがたがあまり変わらないものから順番に説明していると思います。

先生： では、文章を読みながら一緒に確かめていきましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

筆者はどのような理由で例の順番を決めたのだろう。

子供が自ら問いを発見する

先生： たくさんの例がありますが、書かれている順番に意味があると思いますか。

児童A： あると思います。「いちばん分かりやすいのは」と書いてあるからです。

児童B： でも、何が分かりやすいのか、いろいろ考えられるよね。

児童C： どのような理由で例の順番が決められているのか、文章を読み返してみよう。

子供が解決の方法を見通す

児童D： 「分かりやすい」とあるけど、例の分かりやすさは、何を見て比べればいいのか。

先生： そうですね。例の分かりやすさを比べる視点など、なかなか解決の見通しがもてない人は、横に貼ってある「段落のまとめ」の一覧表を見てください。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

先生： 例の順番にどのような理由があるか、分かった人はクラウドに記入をしてください。うまくいかない場合は、他の人の考えを参考にしてみるのもいいですね。

児童E： Fさんの考えが参考になるなあ。僕の考えも、もう一度見直してみよう。

先生： グループで発表をして、よく分からなかったところを質問したり、自分の考えに意見や助言をもらったりしてください。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

先生： 今日どのようなことに気付きましたか、分かりましたか。気になりましたか。(ICTで振り返りを集約し、可視化して児童が共有できるようにする。)

先生： Eさんは、最後の段落について気付いたことがあるようです。紹介してください。

新しい問いの発見

児童G： 最後の段落だけ、時間やすがたについて書いていません。
児童H： 最後の段落の書き方は、自分たちの説明文づくりに生かすことができるのかな。

個に応じた見通しの支援

個での試行錯誤や協働の選択

解決した課題の共有

振り返り

「学習者主体の授業」実践例

天城町
教育委員会

小学校6年
算数科

提示した課題



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【学びに向かう力、人間性等】～マイプラン型学習の導入～

- ・ 単元に見通しをもち、自らの学習を振り返り、修正等を行いながら、学習における自己調整を図ろうとする。
- ・ 単元の目標に対し、学習の方法を自己選択・自己決定しながら学習を進めようとする。
- ・ 日常生活における算数的な体験活動を充実させることで、学習の成果を日常生活に生かそうとする。

○ 工夫した点

- マイプラン型学習を行うに当たり、オリエンテーションでは、学習の進め方及び学習の手引きの使い方の説明、各種掲示物や体験コーナー、チャレンジ課題の紹介を行った。
- 動画資料を多めに準備し、学んだことの確認や理解を深めるためのヒントに使えるようにした。
- チャレンジ問題を準備し、学習の成果を日常生活に生かせるようにした。

今までの授業では…

【学習課題】

- ・ 前時との違いに着目したり、既習事項が使えるか考えたりしながらめあてを立て、1時間ずつ授業が進んでいく。

先生：前時と違うのはどこかな？使えそうな算数モンスターはどれかな？
児童：○○が違う。ヒトツツやソロエが使えそう。
先生：今日の学習は……

※ 「マイプラン学習」とは、当該校が設定した自由進捗学習のことである。

学習者主体で授業をデザインすると！

【マイプラン型学習課題】

1. マイプラン型学習ガイダンス、オリエンテーション
学習の手引きを基に、時数、学習内容（学習すること）と学習の目標（学習のゴール）、教科書のページ、チェックテスト番号、ワークシート番号、参考コーナー（動画の二次元コード、掲示物、スマイルドリル、計算ドリル）を確認し、単元全体の見通しをもつ。
2. マイプラン型学習
※ 教科書、ノート、ワークシート、チェックテスト、計算ドリル、タブレット（ロイロノート・スマイルドリル）、掲示物、友達、先生
 - ① **学習の目標（学習のゴール）を基に、めあてを立て**、課題解決の方法を自己選択しながら学習を進めていく。
 - ② **問題を考える上で必要な情報を選択**し、学習内容が理解できるように取り組む。
 - ③ 「**分かったつもりになること**」を避けるため、ワークシートと対応したチェックテストで理解度を確認する。友達、先生、動画、教科書、前回のワークシートなど**必要に応じて学習の方法を自己選択・自己決定しながら理解を深めていく**。
 - ④ 毎時間の振り返りシートには、**考え方・理解度、学びの方法、学びの雰囲気**の自己評価を行う。また、**見つけた算数モンスター、振り返りは具体的に記述**する。
 - ⑤ 毎時間、学習の手引きと振り返りシートはロイロノート提出箱へ提出する。
 - ⑥ 授業の導入で紹介される前時の**振り返りシート（書き方の手本となるような記述）**や**テキストマイニング**を参考に、**自らの学習方法を修正**するなど自己調整を図る。
 - ⑦ チャレンジ問題では、学習の成果を生かし、算数的な体験活動を行う。
 - ⑧ 単元テストで理解度を確認する。

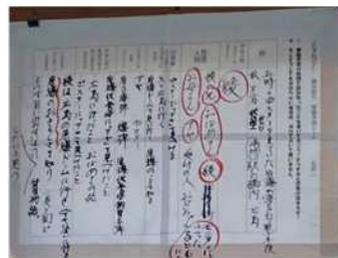


【マイプラン型学習で扱う資料及び児童が学ぶ様子】

「学習者主体の授業」実践例

伊仙町
教育委員会

小学校5年
教科 国語



学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】
登場人物の会話や行動から役割を考えよう。
(リーフレットをつくるための人物相関図)

学習者主体の授業

【導入(単元全体を見通し,ゴールを示す)】

- 物語のパンフレットを作り,保護者に説明する。
- 単元全体読みをし,概要を全体で把握する。



※焦点を絞った全体指導

【個別最適な学び・自己調整学習】

- ・ 最終ゴールの物語のパンフレットを作るために,登場人物の関係を考えながら,人物関係図を作る。
- ※教師は児童の伴走者。(委ねながら,見守る)

【学習内容を共有・自己修正】

- ・ 個々に作成した人物相関図を互いに発表し,自分の人物相関図を修正する。

【まとめ・ふりかえり】

- ・ 子供主体のパフォーマンス(より多くのアウトプット)

※ 教師は「なぜそう思った」「根拠は？」などの問いで児童の読みや考えを発展させ,課題解決へと導く。
(総括評価,子供へのフィードバック)

5年国語 物語単元「たずねびと」

- 先生： 物語のリーフレットを読む人に伝わるように人物相関図を作ろう。
- 生徒A： 本文を読んで,主人公を中心に人物相関図を作るんですね。
- 先生： ロイロノートやワークシートでこれまでの学習を振り返りながら,考えてみてね。
- 生徒B： どの人物から考えるかは自分で選んで進めていいんですね。



(児童主体での学び)
個人・ペアでの学習を児童が自己決定し,必要に応じてグループでの「課題解決を行う。

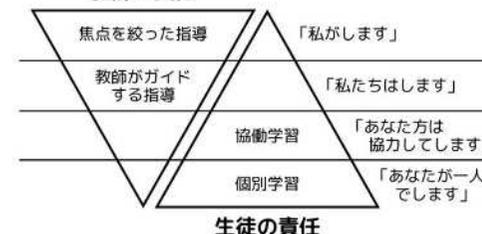


児童が情報を共有し,修正を重ねながら,よりより人物相関図へと高めていく。
(協働学習)



完成した人物相関図を発表する。それぞれの登場人物の役割を説明する。
(まとめ・ふりかえり)

教師の責任



出典「学びの責任」は誰にあるのか:「責任の移行モデル」で授業が変わる」

【効果的な指導の枠組み】

○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

- 【知識及び技能】
- ・ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して,語や語句を使うことができる。
- 【思考力・判断力・表現力等】
- ・ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり,表現の効果を考えたりすることができる。
 - ・ 文章を読んで理解したことに基づいて,自分の考えをまとめることができる。
 - ・ 意見や感想を共有し,自分の考えを広げることができる。
- 【学びに向かう力,人間性】
- ・ 粘り強く物語の全体像を具体的に想像し,見通しをもって,物語に対する思いや考えを伝え合おうとする。

○ 工夫した点

- 意欲を高めるために,学習計画をICTを用いて作成することで,学習全体の見通しをもたせた点。(毎時間の板書・記録をデータに残し,振り返りを可能にした。)
- 一斉指導と自由進度を組み合わせ,子どもの初発の感想や疑問を取り入れた学習計画を立てさせた点。
- 人物相関図をつくる活動を取り入れることで物語全体をとらえることができたようにした点。
- 家族向けにリーフレットを作成するという言語活動を設定することで,意識を高め続けさせた点。

今までの授業では…

【学習課題】・登場人物の気持ちを本文から読み取る。

(授業の流れ)

- ・ 教師の指示による場面の音読。
- ・ 教師が示した文を元に学習課題を設定する。
- ・ 決められた一文をもとに教師主導のもと,学習を進める。
- ・ まとめられた板書を児童はノートに写して感想を書く。

先生： 今日は3の場面の主人公の気持ちを読み取ります。
主人公が言った言葉に線を引いてみましょう。
主人公はどんな気持ちで言ったのだろう。

生徒A： かわいそうと思う気持ちです。

先生： それは文のどこを読んで思ったのかな。

「学習者主体の授業」実践例

知名町
教育委員会

小学校1年
国語科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

- 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。
- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- 事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
- 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- 積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿って分かったことや考えたことを伝えようとする。

○ 工夫した点

- 学習者主体の授業にするために、子供たちが単元のゴールを設定する時間を確保した。
- 学習者主体の授業にするために、子供たちに相手意識や評価意識をもたせたり、相手からの評価を受け取ったりして、単元の学習を進めた。

今までの授業では…

【学習課題】

単元の学習計画を立てよう。

先生： 今回の単元は、この計画に沿って学習を進めていきます。
児童A： もっと詳しく調べて書きたいなあ。書く時間がもっとほしいなあ。

学習者主体で授業をデザインすると！

- ・ 子供が単元の進め方を決定する。
- ・ 子供が相手意識や評価意識を設定する。

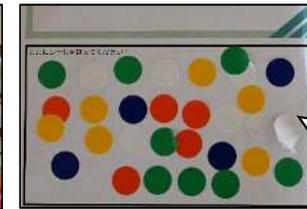
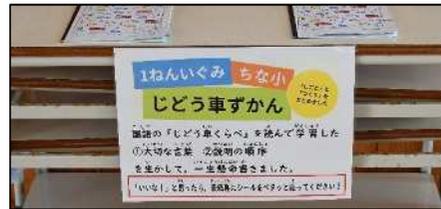


先生： 自動車について「調べる時間」、図鑑を「書く時間」、それぞれ何時間ぐらいありますか。
児童A： 調べる時間は、3時間欲しいです。
児童B： 書く時間は、2時間かなあ。
先生： 自動車図鑑は、どんな人たちに読んでもらいたいですか。
児童C： 図書室に置いて、知名小のみんなに読んでほしい。
児童D： 知名小以外の人たちにも、「なるほど」、「おもしろい」と思っしてほしい。

・ 相手からの評価を受け取る。



先生： 図書室に置いた自動車図鑑がどうなっているか、見てみましょう。
児童E： たくさんシールが貼ってあるよ！
児童F： たくさんの人たちに読んでもらえたんだね。
児童F： みんなで一緒に頑張って作ってよかったね。
児童G： もっと図鑑を書いてみたいなあ！



図鑑を読んだ人が「なるほど」「おもしろい」と思ったら、表紙裏にシールを貼ってもらった。